づくりの魅力発信 ―人材難に挑む

兵庫工業会はこのたび、県内モノづくり企業における人材不足の課題解決の方向性を見いだすべく、産・官・学を代表する方々との座談会を実施した。座談会では活発に意見が交換された。

座談会

―人材不足が叫ばれています。会員企業の現状と課題、また県内学生が持つ、県内モノづくり企業へのイメージをどう感じていますか。

宮脇　兵庫工業会は約380社のモノづくり企業からなる団体であり、その内の約7割は中堅・中小企業である。兵庫県下のモノづくりの振興・発展を通じて県を盛り上げようと活動している。会員各社はこれまで、コロナ禍や中国のゼロコロナ政策、サプライチェーン分断など非常に厳しい状況であったが、最近ではこういった状況が少しずつ緩和しており、稼働率は改善している。

一方、人材不足やエネルギー価格の高騰、物価高などの課題もあり、頭の痛い経営者も多いのではないか。外部環境変化への対応や事業ポートフォリオの変更など、未来に向かって革新できる人材を確保したいというのが企業経営者の率直な気持ちだと思う。デジタル変革（DX）推進などデジタル技術にたけた人材ニーズも高いが、現在は需要と供給のバランスが崩れているため、自社で知識やレベルを向上できる人材育成が重要だと考える企業も多い。最近の学生は安定志向で大手企業に目が向きがちであり、就職を機に県内学生が県外へ流出してしまう。このような課題をどう打破していくかが重要である。

金井　〝Z世代〟の感覚や価値観がそれまでの世代とは大きく変わってきている。モノづくり企業としては、自社の社員教育でスキルアップを期待するのだが、今の若い世代は〝長く同じ所には居ない〟といった考えが定着しているようだ。5年以内で転職を考えている若者は76・3％という調査結果もあり、「長い目で育てたい」と思っても「3年しか居てくれない。5年も居てくれればいい方」ということになると、技術の蓄積が難しい。

一方、人材不足は大手企業でも同じであり、これまで中堅・中小企業での就職を考えていた人材が、大手企業に流れているといった傾向もある。こういった状況では、中堅・中小企業の人材確保はさらに難しくなり、新卒だけでなく、中途採用や第二新卒の採用活動も必至となる。

藤嶋　「目の前の処遇・待遇はどうなのか」といった短絡的な視野で就職を検討する学生が多いと聞く。そのような中で、例えば退職金制度を廃止し給与に上乗せするなど社内制度をどう変えていくべきかということが企業における課題となっている。

当社の例だが、大学で開催される〝合同企業説明会〟などに出展してきたが、参加学生が全体的に減少しているように感じる。知名度の高い企業のブースに学生が集まり、中堅・中小企業のブースには集まらない。採用する企業としても待っているだけでは人材不足の課題を打破できないと感じている。学生との接点をいかに多く持つかということがカギになるが、いずれにせよ、中堅・中小企業は知名度の低さがウイークポイントだ。

―大学ではこの状況をどう見ますか。

太田　兵庫県立大学では、「兵庫のものづくり」や「地域企業の戦略と経営」などの講義を通して地元企業で働くOG・OBの就業経験や、地域企業の社長らによる経営戦略の話など、地元を意識した生きたキャリア教育も行っているが、ご両親の影響もあり、就職戦線のスタート時には大手企業への就職を希望する学生が多い。しかしこれが中盤に入り、面接などいろいろなことを経験することで意識が変わり、地元の中堅・中小企業に就職先を変える学生も居る。

一方、当面の待遇を気にする学生も存在する。女子学生には企業の立地や働きやすさを重視する傾向が見え、兵庫県から出て行く若い女性の割合が高い。地元に残りたい、地元に帰ってきたいという企業文化や社会文化をつくらないといけない。本学の工学部の学生は就職に対して慎重なところがあり、先輩やOB・OGの居る企業や、大学が推薦する企業を目指す傾向が強い。

瀬口　学生には日頃から「いろんな事に挑戦しなさい」と伝えている。社員一人一人を大切にする会社であるということが就職へのカギだと感じる。社員の意見を取り入れて職場環境を改善しているということが見えないといけない。本学では、武庫川女子大学ならではの教育・研究の魅力を発信するPRやオープンキャンパスなどを実施し〝女性活躍時代を担う人材を輩出する〟という理念が見えるように力を注いでいる。

企業の皆さんには合同企業説明会だけでなく、ダイレクトに大学にアプローチすることを提言したい。経営に関することなども女子学生へ発信し、就職に対する安心感を与えてほしい。10年先、20年先を見据えた経営に取り組んでいることが見えるような企業であってほしい。こういったことが知名度向上につながると思っている。

―兵庫県ではこういった製造業の人手不足の課題の解決のために、どういった施策を進めていますか。

竹村　雇用に関して気にしていることは三つ。一つ目は、急速な生産年齢人口の減少である。県内の生産年齢人口は、2010年に約350万人だったものが、40年には約240万人に減少する。つまり30年で約110万人減少する。極端にいうと3人の働き手が2人になるということだ。二つ目は、急速な少子化による学生の減少である。県内における2000年生まれの若者たちは約5万3000人。ピークだった第2次ベビーブーム時（1973年）生まれは、約9万8000人であったため45％以上減少している。

そして三つ目は、県内理系学生数が少ないことである。全国規模で見ると、全大学における理系大学の比率が約18％であるのに対し、兵庫県内では約6・6％と極端に文系に偏っている。この前提を踏まえると、モノづくり県である兵庫県としては工業系や技術系の人材の確保が不可欠ということである。

製造業に関する特徴的な施策として県では、モノづくり分野への女性・文系人材の就業促進の取り組みを、兵庫工業会と連携して進めている。モノづくり現場における業務の分析や仕分けを行い、最適人材の活用を進めるのが目的だ。例えば在庫や顧客データの管理、受注・発注など事務的センスで対応できる業務には、男女を問わず文系人材の活用も推し進めたい。モノづくり現場における適性人材の対象を広げることで、人手不足の課題解決を進めていく。

また、この取り組みの一環で、兵庫工業会では武庫川女子大、神戸親和女子大学と連携されている。この取り組みを通じて感じることは、製造現場に女性が就職できない訳ではなく、むしろ採用側経営者のマインドに〝女子ではムリだ〟という発想があるということだ。経営者にも意識を変えてもらう必要があると思っている。

マッチング機会提供 重要に

兵庫工業会会長
宮脇　新也氏

―人材確保に向けた具体的な取り組みについて教えて下さい。

宮脇　兵庫工業会としては企業と学生のマッチング機会をできるだけ提供することが重要だと考えている。特に足元では〝文系女子学生でもモノづくり企業で活躍できる〟ということをPRしている。文系女子学生が就職先を選ぶ際、モノづくり企業は初めから対象外。同様に、採用側企業も文系女子学生は対象外と考えている節がある。当会としては「女性が活躍できる場面がモノづくり企業にはたくさんある」ということを学生に知ってもらう活動が欠かせないと考えている。

採用活動では企業側の採用担当者にも、これまでとは異なった工夫をしてもらう必要があると思っている。そのため現在、「採用イノベーションスクール」という研修の企画・実施に取り組んでいる。大学の就職担当者に講師を務めていただき、中堅・中小企業の採用担当者を対象に〝学生に向けた効果的な採用活動〟について学ぶ機会を設けた。

そのほか、今後の方針になるが、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みも進めていこうと考えている。ここ最近の学生には〝SDGsに取り組んでいる企業〟であるということが、就職先を選ぶ条件の一つとなっているからだ。

金井　学生の立場に立てば、いかに不安を払拭できるかということが大切だ。当社の話になるが、インターンシップ（就職体験）については1サイクル5日間で、これを5回実施している。最近は、自分自身の強み・弱みを理解している学生が少ないと感じており、企業を理解してもらうと同時に、自分の強み・弱みを理解してもらうことも目的としている。

また学生との接点を増やすために、合同説明会での採用に至るチャンスは効果が薄く、武庫川女子大や関西大学、大阪大学など個別に大学に出向き、セミナーや講演などを実施している。工場見学会なども行い、製造現場の課題・問題などについても理解してもらえるよう取り組んでいる。学生に密に接することにより、就職への不安を払拭してあげられるよう親身になって信頼関係を構築する。当社から学生にアプローチしてミスマッチの解消に務めている。当社への採用に限らず、就活の学生のスキルアップを応援したいという思いで取り組んでいる。

藤嶋　当社では合同企業説明会への参加やインターンシップを継続している。年間で3校程度から学生を受け入れ、単なるインターンシップではなく少し手を加え〝新人教育のインターンシップバージョン〟といった形で工夫している。そうすることで企業現場の学生受け入れ負担を軽減すると同時に、学生には実作業に近い経験をしてもらえる。また各学校の就職担当者との個別の関係構築にも力を注いでいる。

―行政としてこういった企業と学生のマッチングの現状をどう理解していますか。

竹村　学生と話をしていると、地元で就職するということについては二つの条件があると感じている。一つは地元に魅力的な企業があるということ。もう一つは地元が魅力的な地域であるということだ。この二つが重なって初めて地元就職が成り立つと思っている。また、最近の女子学生の約半数は、ワークライフバランスを重視する傾向がある。生活を充実させる場所というのは子育て支援の充実や、街の魅力を感じられる場所だと理解している。

そういった意味で、30年をめどとする神戸空港の国際化は、兵庫・神戸にとっては魅力が高まる良い機会であり、地元に若者が定着する大きな要素になると感じている。地域の魅力向上には、行政の担う役割が大きい。一方、企業経営者にとっても多様な働き方を認めていくということが非常に重要だと感じている。

（本文、次頁に続く）

行政ビジョン 施策に反映・支援

面接を双方 対等理解の場に

兵庫工業会監事
藤嶋　純子氏

地元重視の文化醸成 急務に

兵庫県立大学学長
太田　勲氏

座談会出席者

◇兵庫工業会	会長	宮脇　新也氏
	副会長	金井　宏彰氏
	監事	藤嶋　純子氏
◇兵庫県立大学	学長	太田　勲氏
◇武庫川女子大学	学長	瀬口　和義氏
◇兵庫県　産業労働部長		竹村　英樹氏

【司会】　日刊工業新聞社　神戸総局長　増田　泰久

兵庫工業会特集

創業明治二十一年　弁当・駅弁、折詰、幕の内、会席料理、パーティー料理、レストラン・麺類店の経営
まねき食品株式会社
取締役会長 竹田佑一　代表取締役 竹田興高
〒670-0947 兵庫県姫路市北条953番地 ☎079(224)0255
https://www.maneki-co.com　FAX079(284)8481

金井グループ
金井重要工業株式会社
トクセン工業株式会社
代表取締役社長 金井宏彰

見分けるチカラで、未来を守る。
グローリー株式会社
代表取締役社長 三和元純
〒670-8567 兵庫県姫路市下手野1－3－1 ☎079(297)3131
https://www.glory.co.jp　FAX079(294)6233

ミツ精機株式会社

伝動ベルト、搬送ベルトおよび関連機器など「高機能」「高精密」「高品質」な製品を提供する
三ツ星ベルト株式会社
代表取締役社長 池田浩
神戸本社 〒653-0024 神戸市長田区浜添通4－1－21 ☎078(671)5071
https://www.mitsuboshi.com　FAX078(685)5670

ゴムの先へ。はずむ未来へ。
住友ゴム工業株式会社
代表取締役社長 山本悟
〒651-0072 神戸市中央区脇浜町3－6－9 ☎078(265)3000

Smoothflow ポンプテクノロジー
株式会社タクミナ
代表取締役社長 山田信彦
〒541-0047 大阪市中央区淡路町2－2－14 ☎06(6208)3971
https://www.tacmina.co.jp　FAX06(6208)3977

ベルトと機能部品で「際立つ」グローバルサプライヤーに
ベルト・自動車部品・産業資材・高機能エラストマー製品
バンドー化学株式会社
〒650-0047 神戸市中央区港島南町4－6－6 ☎078(304)2923
www.bandogrp.com　FAX078(304)2983

非鉄金属鋳物製造
カルモ鋳工株式会社
代表取締役 髙橋直哉
〒651-2271 神戸市西区高塚台3－1－45 ☎078(991)1414
FAX078(991)1418

各種スポーツ用品等の製造および販売
株式会社アシックス
取締役会長 尾山基
〒650-8555 神戸市中央区港島中町7－1－1 ☎078(303)2231
https://corp.asics.com/jp/　FAX078(303)2241

電子応用機器・通信機器・医療用機器等の開発・製造および販売
古野電気株式会社
代表取締役社長執行役員 古野幸男
〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9－52 ☎0798(65)2111
https://www.furuno.com/jp/　FAX0798(63)1020

フルヤ工業株式会社
代表取締役社長 降矢寿民
〒669-2211 兵庫県丹波篠山市大沢新110 ☎079(594)1111㈹
http://www.furuyainc.co.jp　FAX079(594)1115

兵庫工業会

産・官・学連携で地元モノ

中途や第二新卒 採用が必至

兵庫工業会副会長
金井 宏彰氏

―DX推進やSDGsなど時代の変化が著しいですが、大学としてどういった人材育成に注力していますか。

太田 本学においては、1学年1300人の学生のうち、約4割が理学部・工学部。2割強は文理融合系の学部で、環境人間学部と社会情報科学部があるが、社会情報科学部については経済学・経営学を基盤にしたデータサイエンティストを育成している。現在のDXの流れと関わりが深いため、DX人材が不足しているということは実感している。特に中堅・中小企業はDX人材の確保に苦労しているが、そこに新卒学生を供給できるかといえば、現状、必ずしもそうではない。そのため、社内人材のスキルアップやリスキリングを実践していくことが重要だと感じている。

本学の産学連携・研究推進機構には「DXサポートセンター」と「人工知能研究教育センター」を設置。DXサポートセンターでは、多様な情報をただ単にデータ化して利便性の向上を図るだけが目的ではなく、ビッグデータ（大量データ）化して、システムとしていかに経営戦略に生かすかというところまでをサポートしている。人工知能研究教育センターでは、技術者にIoT（モノのインターネット）やビッグデータ、人工知能（AI）の知識を身につけてもらうことを支援している。

SDGsについては非常に重要な切り口。〝人の心を豊かにする〟や〝地球に優しい〟などの視点から、広い意味でのデザインがこれまで以上に重要になると感じており、工学部にデザイン工学を扱う研究センターの設置を検討している。そのほか特長的なのは、10年以上継続する地域連携卒業研究。抱える課題や、新たな技術開発などのテーマを企業から提出してもらい、教育レベルにマッチするものであれば、それを卒業研究のテーマにするという取り組みだ。学生にとっては企業の現場を知ることができる良い教育となる。重要なのは、企業の方からも大学へアプローチするということである。

瀬口 19年の武庫川学院創立80周年を機に〝一生を描きける女性力を〟という100周年に向けたビジョンを掲げた。この取り組みの一環で、20年にこれまでの建築学科に加え、新たに景観建築学科を設置。この2学科体制とする建築学部を開設した。同時に、経営学部も開設。感性豊かな能力を企業の方々へ提案していく。また、食物栄養学科に食のビジネスに対応できる人材育成を図る食創造科学科を加え、食物栄養科学部とした。

23年4月には健康・スポーツ科学部にスポーツマネジメント学科を設置。さらに、情報メディア学科を社会情報学部として、情報メディア専攻と情報サイエンス専攻の2専攻体制に改める。同様に、心理・社会福祉学科も学部化し、心理・社会福祉学部としてスタートを切る。これにより本学は12学部19学科、学生数1万人という女子総合大学に発展し、共学校にも負けない体制で、10年先、20年先を見据えた人材育成に力を注いでいく。

―人手不足の課題解決には産・官・学の連携が不可欠です。期待することは。

宮脇 一つ目は、企業側の努力として、広い意味での〝働き方改革〟を実践していく必要がある。これはSDGsの取り組みとも重なる。多様な人材を多様な方法で採用し、多様な働き方を提供することが不可欠だ。男女・専攻にかかわらず活躍する機会があるということを、企業・学生の双方が認識することが重要である。毎年4月1日付けで新卒者を一括採用するという従来の日本型採用の慣行や、週5日間、8時から17時までといった硬直的な働き方が時代のニーズに合わなくなってきており、こういった変化への対応が欠かせない。

これは新卒者だけでなくUJIターンなど転職者の確保にとっても重要である。モノづくり企業は現場があり、リアルの世界で生産活動をしているため働き方に制約が多いことは事実であるが、デジタル技術やロボット技術の活用などでブレークスルーし、働き方改革を進め、従業員の幸せにつなげていくことが重要だと考えている。この点で大学の知恵をお借りしたいし、兵庫県には制度面や経済面での支援を期待したい。

二つ目は、兵庫県の魅力アップだ。我々も、もっと真剣に考える必要がある。兵庫県が、子育て・教育環境が充実し〝住みやすい街・住んでみたい街〟になっていくよう、県としての取り組みをさらに強化いただきたい。産業界の役割として大切なのは、兵庫県にはSDGsに積極的な企業や将来性のある企業が集積しているということを発信することだと考えている。産・官・学が一体となって「HYOGOブランド」の価値向上に取り組むことが重要だ。

金井 時代の変化に対応できなければ生き残れない。大学にお願いしたいことは、

コストではなく将来投資

ミスマッチ解消へ行政橋渡しを

武庫川女子大学学長
瀬口 和義氏

〝この変化に自分たちがどう応えられるか〟という意識を学生に養っていただきたいということだ。欧米で見られるような人間力向上のための教養を身につけるリベラル・アーツも必要だと感じる。現在の採用状況は〝売り手市場〟であり、学生優位である。心血を注いで採用内定を出しても平気で断ってくる学生が少なくないため、人間性の教育もお願いしたい。

県内学生の県内企業への就職について、個人的には必ずしもそうあるべきだとは考えていない。制限を与えることなく〝何処でも行ってこい〟といえる学生を育てることも重要だと考えるからだ。現在は〝転職の時代〟であるため、いろいろな環境を経験しスキルを身につけた人材が、兵庫県に戻って来やすいような施策があれば良いと思っている。加えて、奨学金を補助するなどで、やる気のある学生にチャンスを与えられるような施策もお願いしたい。

藤嶋 中堅・中小企業の良さは、従業員のアイデアや意見などがトップに届きやすいということ。一人一人の存在が大きく、〝やりがい〟に関しては、場合によっては大手企業よりも大きい。兵庫工業会には独自の製品や技術を有する企業がたくさんある。こういった中堅・中小企業の認知度を、行政側や大学側からも高めてもらえるとありがたい。企業側の努力も必要という指摘をいただいたので、今後は大学との関係を強化できるきっかけを、より多く投げかけてもらえるとありがたい。

もう一つは、入社3年以内の離職率が3割という採用ミスマッチ。採用ミスマッチは学生にとっても企業にとっても損失である。学生が、どんな会社でどんな仕事がしたいのかということを、もっと熟考していただくことを希望する。また、採用面接では企業ばかりが質問するのではなく、学生が企業に遠慮なく質問攻めをするぐらいの気持ちで企業を見極めていいのではないかと思う。しかし実際に学生から質問攻めをすることがしづらいならば、企業側が主導し、〝双方対等に理解する場〟となるよう、対等に質問し合える面接になることが大切だ。

―こういった要望を受け、産・官・学連携で特筆すべきことは。

竹村 重点的にやろうとしていることは三つ。一つ目は、インターンシップについて大学1、2年生のうちから活動し、企業風土や経営者の人柄などへの理解を深めてもらおうと考えている。早めのインターンシップ活動に来年度から取り組む方針だ。二つ目は、兵庫県には理系大学が少ないため、県外の理系大学を中心に就職支援協定の締結を増やしていきたいと考えている。県外大学と県が支援協定を結んでいると、県内企業にもさまざまなメリットがあるからだ。

三つ目は、女子学生に向けてのキャリアプランニング支援である。女性にとっては就職・結婚・出産など、自分のライフステージをいかにデザインするかということが重要であるため、県としてはこのサポートも強化していく。県内企業に魅力を感じ、その企業の社風に合う人が全国から集まってくるというような受け皿をつくっておくことが重要であり、UJIターンの仕組みもきっちりと整えていきたい。

太田 学生教育の一環としてインターンシップを位置づけることが、企業にとって重要だ。2、3日のインターンシップではなく、最低でも2週間は継続していただきたい。これが結果として学生の人間力を高め、就職先選択を後押しする。県や兵庫工業会とは既に、DXに係るリカレント教育で連携しているが、今後はグリーントランスフォーメーション（GX）も産業成長につながる切り口となるため、水素技術についても産・官・学連携でどう展開していくのか、どう学生に教育していくのかも検討している。

加えて、起業マインドを持った学生を育てていくことも大切。これについても県から支援いただいており、今後も続けていく考えだ。今後は女性の高度なモノづくり人材の育成や、外国人を対象とした高度人材の育成も避けて通れないテーマであり、モノづくりのパラダイムシフトへの対応と併せて積極的に進めていきたいと考えている。

瀬口 理系も文系も関係なく、理系の学生は文系について、文系の学生は理系について学ぶ必要があるが、若年時から理科好きの生徒を増やしていくことも大切と考えている。本学の「ひょうご理系女子未来塾」の取り組みは文部科学省の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択されているが、企業の方々にはこういった事業に積極的に参画してほしい。企業側から積極的に大学にアプローチし、大学側も企業と接触する機会を増やす。こういうことが、就職・採用でのミスマッチの解消につながると思っている。そしてここに行政が〝橋渡し〟の役割をしていただけることを大いに期待している。

座談会では兵庫の魅力向上や学生との関係づくりについて活発に意見交換された

現場に適した人材の対象拡大

兵庫県産業労働部長
竹村 英樹氏

―最後に本日の議論を経て、ひと言、決意表明をお願いします。

竹村 人手不足への対応に必要となる視点としては①生産年齢人口が減少する中での労働力の確保②DXやリスキリングなどによる生産性や労働の質の向上③Z世代を中心とした若年層の働き方に対する思考の変化の理解―が重要であり、一体的に解決する必要がある。行政としては将来ビジョンを共有し、施策にも反映しながら、支援していきたい。

太田 大学の役割は教育・研究・社会貢献で、人材育成が最も重要。少子化で大学の差別化が求められているが、兵庫県立大の最大の使命は教育・研究を通じての地域貢献だ。最先端の研究施設を利用し、日本人だけでなくいろいろな国の若人を教育して世界に輩出したい。工学部のキャンパスを建て替えていて、先端技術の研究推進や、より高度な専門知識を持つ大学院卒の人材を地元産業界にも送りこむ考え。神戸市新長田地区にリカレント教育や産学連携拠点を設け、大学発ベンチャーなども積極的に展開する予定だ。

瀬口 創立100周年に向けて〝武庫女ビジョン〟を公表し、それに沿った大学運営を行っている。「女性活躍総合研究所」を中心に、研究者の養成や女性活躍の場の開拓など、大学として一層女性活躍の支援・発信に力を尽くしたい。

宮脇 人材にかかる費用は〝コスト〟ではなく〝将来に向けた投資〟という考え方が広がっている。人材不足は将来不安を残すことと同義であり、その解消のためには従業員の幸福を追求する姿勢が不可欠だ。これにいち早く気づき、行動することが大切。産・官・学連携を強めることが重要であり、本日の皆さんのご意見を、今後の兵庫工業会の活動にも生かしていきたい。

兵庫工業会特集

株式会社 神戸製鋼所
代表取締役社長 山口 貢
神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜海岸通2−2−4 ☎078(261)5111
東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川5−9−12 ☎03(5739)6000
http://www.kobelco.co.jp

川崎重工業株式会社
代表取締役社長執行役員 橋本 康彦
〒650-8680 神戸市中央区東川崎町1−1−3 ☎078(371)9530
https://www.khi.co.jp FAX078(371)9568

水と空気を科学する
ハニー化成株式会社
代表取締役社長 吉田 眞也
〒653-0039 神戸市長田区日吉町3−1−33 ☎078(691)8282
http://www.honny.co.jp FAX078(691)8289

株式会社 フジ・データ・システム
代表取締役 藤嶋 純子
〒660-0892 兵庫県尼崎市東難波町5−21−14 ☎06(6401)1211
https://www.fdsnet.co.jp FAX06(6401)1244

鉄鋼、鉄鋼材料、非鉄金属、機械、情報産業、溶材
各製品の販売および輸出入業務
神鋼商事株式会社
代表取締役社長 森地 高文
東京本社 〒104-8389 東京都中央区京橋1−7−2 ☎03(5579)5201 FAX03(5524)5704
大阪本社 〒541-8557 大阪市中央区北浜2−6−18 ☎06(6206)7010 FAX06(6206)7018
https://www.shinsho.co.jp/

社会と地球が調和する未来を支える。
株式会社 神鋼環境ソリューション
代表取締役社長 佐藤 幹雄
〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1−4−78 ☎078(232)8018
http://www.kobelco-eco.co.jp FAX078(232)8051

世界6ヶ国・7の現地法人を配置し、一貫同期生産体制（金型設計／製造、樹脂成型、プレス加工、基盤実装、外装、組立）を確立
株式会社 村元工作所
代表取締役社長 村元 陽一
〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台3−1−56 ☎078(991)1600
https://www.muramoto.com/ FAX078(991)1580

精密金属プレス・板金加工並びに設計開発業務で
お客様の心に届く『モノづくり』を目指しています
大島金属工業株式会社
代表取締役 大島 孝一郎
〒651-2228 神戸市西区見津が丘2−1−8 ☎078(995)4591
E-mail info@oshima-kk.com FAX078(995)4599

総合プラントエンジニアリング
株式会社 コベルコE&M
代表取締役社長 浅田 秀樹
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町4−5−22 ☎078(803)2901
https://www.kobelco-em.jp FAX078(803)2909

分析・試験・測定から試作・製造にいたるまで、
最新鋭の設備と技術でお客様のご要望にお応えします。
株式会社 コベルコ科研
代表取締役社長 三宅 俊也
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1−5−1 ☎078(272)5915
https://www.kobelcokaken.co.jp FAX078(265)3622

ユーザーとメーカーを技術で結ぶプロデューサー
工作機械、プレス鍛圧機械と各種装置を“ロボットでシステムインテグレート”
宮脇機械プラント株式会社
代表取締役 岡本 淳
本社 〒673-0021 兵庫県明石市北王子町2−26 ☎078(927)1181 FAX078(928)1394
神戸支店 〒651-0093 神戸市中央区二宮町4−23−9（リーガル新神戸702号） ☎078(891)4002 FAX078(891)4003
姫路営業所 〒672-8040 兵庫県姫路市飾磨区野田町127（高田姫路ビル3F B号室） ☎079(280)5563 FAX079(280)5564
https://www.mkp-fa.co.jp/

巻取機・切断機・自動機・省力機 設計製作
甲南設計工業株式会社
代表取締役社長 澤田 昌浩
〒673-1232 兵庫県三木市吉川町金会1004−3 ☎0794(76)2788
http://www.konansk.co.jp FAX0794(76)2888

多様な事業で工業振興下支え

兵庫工業会

兵庫工業会は産業技術に関する人材育成や交流促進などに関する事業を行い、兵庫県工業の振興を下支えしている。県内モノづくり中小企業の声を取り入れた多様な事業を展開し、地域社会の発展に貢献している。同会の主な活動内容を紹介する。

研修・支援で企業の対応後押し

DX推進

DX推進協議会を2021年9月に発足し、〝DXとは何か？〟と議論を重ねてきた。22年には「DXトライアル企業」を公募し、企業ごとに異なる課題についてアドバイザーの意見を聞きながら、デジタル変革（DX）に取り組んでいる。

DXに対してどこから手を付ければ良いか分からない企業にも、新たなIT（情報技術）ツールを導入するポイントや、ベンダーに対してのRFI（情報提供依頼書）の記載の仕方から導入決定に至るまでの支援をしている（一部有償）。

兵庫工業会では取組企業の中から、DXトップランナー企業として県内企業のベンチマークとなっていくことを期待している。

DXを推進するためにはIT、DS（データサイエンス）、人工知能（AI）の基礎知識が必要となる。そこで同工業会では関西学院大学ほかが開発した、オンラインで講師による解説動画と復習テストを行う「AI活用人材育成プログラム」を活用、初めてこの分野を学ぶ人や数字が苦手な文系の人でも体系的に学べる研修プログラムを提供している。

昨年度は約500コースの受講があり、受講してテストに合格した人には、デジタル修了証（オープンバッジ）が授与される。なお兵庫県内のDX人材の育成促進のため、受講料の一部が県から補助される。

また22年度下期から、兵庫県立大学製作の「DX人材育成リカレント教育」のプログラムを活用し、経営者や技術者向けに基礎知識を学び、DXの取り組みを推進する研修を開始している。

▲「DX人材育成リカレント教育」の案内パンフレット

「兵庫技術研修大学校」23年度16コース開講

人材育成

兵庫工業会の「兵庫技術研修大学校」は技術者や技能者、現場管理・監督者に対する研修事業として1962年から実施している。これまでの実績を踏まえ、企業のニーズに即した内容で企画。会員企業のほか、県内企業の人材確保や人材育成に寄与することを目的として、神戸・姫路教室ほかで実施している。

2023年度も機械系や電気電子系、設計・製図、現場改善など16コースを開講する。

また「研究会」は品質管理や現場安全などテーマごとに開催し、各社が日頃から抱える課題やその対処法に関する情報・ノウハウを参加企業で共有。工場見学、講義、事例研究などにより得た知識を活用し、職場の業務改革を行うことを目的として実施している。

そのほか、モノづくり中小企業の経営者や経営幹部を対象とした「ものづくり中小企業経営研究会」では、経営課題に関わる有識者との意見交換や現場視察などの交流機会を設けることにより、参加者自身の経営力強化に関わるスキル蓄積と、自社展開への手がかりを習得し、県内各地の中核企業として発展することを目的に実施している。同経営研究会について、22年度は「人と経営」をテーマに実施している。

▲技術者や技能者、現場管理・監督者に対する研修事業「兵庫技術研修大学校」
▼有識者との意見交換などを通じ経営力強化のスキル蓄積につなげる「ものづくり中小企業経営研究会」

検討会立ち上げ交流会など展開

SDGs普及

国連の持続可能な開発目標（SDGs）への関心が高まる中、同工業会ではSDGsをビジネスチャンスとして捉え、モノづくり中小企業の経営者がSDGsに取り組む際に背中を押す役目を果たすべく、本年度、「SDGs普及検討会」を立ち上げた。

SDGsに対する企業経営者の本音を知り、行政の支援策などのさまざまな情報を入手・発信している。今後、事例紹介を中心としたセミナーの開催などを予定しており、SDGsの一層の普及促進を図っていく。

コロナ禍第7波の直前の時期である22年7月15日に、地域の中堅・中小企業の活性化を図る目的で但馬地域交流会を実施した。

同工業会の但馬地域における会員企業の経営者、地元の豊岡工業会の会員企業の幹部や、兵庫県産業労働部、但馬県民局の幹部職員ら計40人が参加した。

県内のモノづくり企業の各地域ごとの悩みや行政・兵庫工業会に対する要望など、生の声を聞いた。今後の事業に反映させていく。

但馬地域における悩みで最も多かったのが、人材不足の問題。これはあらゆる地域で課題となっているが、本年度は材料不足（特に半導体関連）が厳しいとの意見が多かった。本年度は12月に中播磨地域、来年度は阪神南北、東播磨地域での開催を計画している。県内各地域での要望を取り入れ、事業に反映していく方針だ。

「但馬地域交流会」では、企業が抱える課題などについて活発な意見交換が行われた

現状変化捉え若者の地元定着へ

人材採用

人口減少や少子高齢化、若者の東京一極集中などにより、地方は若年者人口が減り続け、地域企業では人手不足が慢性化している。また新型コロナウイルス感染予防のため、合同企業説明会などが次々と中止になり、採用活動において学生と企業が出会う機会が激減した。

地域企業の人事担当者向け「採用イノベーションスクール」では、このように大きく変化している現状に対応するため、就職の状況や採用活動を基本から学び直し、採用を革新することで若者の地元定着と地域企業の人材確保に取り組んでいる。11月25、26の両日に但馬地域で開催、12月16、17の両日には北播磨地域で開催する。

また「ものづくり分野における女性就業の促進」をテーマにした支援活動も実施。県内の中小製造業の人手不足解消や、ダイバーシティー経営による競争力強化が必要だと考えるからだ。女性に多い文系人材が活躍できる業務分野の検討を行うとともに、文系の女子大学生を対象として、モノづくりのイメージアップを図る。

同工業会では製造業における女性就業率の向上を目指すため、大学1、2年生の女子学生向けに、就職先として製造業を紹介する就活マッチングイベントを実施。学生には製造業での働き方を浸透させ、就職先の選択肢として捉えてもらう。一方、イベントに出展する製造企業には女性人材の活躍の可能性を探ってもらう。加えて女性が活躍できる業務を明確化する業務仕分け、女性就業促進啓発セミナーなど、情報発信にも力を注いでいる。

▲女性活躍を推進する「女性就業促進啓発セミナー」

新産業創造による地域創生を目指して
公益財団法人 新産業創造研究機構
理事長 牧村 実
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6－1 ☎078(306)6800
https://www.niro.or.jp FAX078(306)6811

小さなふれあい 大きなおつきあい
姫路信用金庫
理事長 三宅知行
〒670-8652 兵庫県姫路市十二所前町105 ☎079(288)1121
https://www.shinkin.co.jp/himeshin/ FAX079(288)9173

ネームプレート・ラベル・表記のトータルサプライヤー
株式会社トーホー
代表取締役社長 上村勝敏
〒660-0805 兵庫県尼崎市西長洲町2－5－25 ☎06(6401)0262
http://www.toho-np.co.jp FAX06(6489)3326

表面改質の総合メーカー
トーカロ株式会社
代表取締役社長 三船法行
〒650-0047 神戸市中央区港島南町6－4－4 ☎078(303)3433
FAX078(303)3435

シスメックス株式会社
代表取締役会長兼社長 CEO 家次 恒
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1－5－1 ☎078(265)0500
https://www.sysmex.co.jp/ FAX078(265)0524

宇宙のような「真空」を創る
神港精機株式会社
代表取締役社長 眞下 忠
〒651-2271 神戸市西区高塚台3－1－35 ☎078(991)3011
http://www.shinko-seiki.com FAX078(991)2860

各種精密打抜スクリーン（パンチングメタル）の製造販売
株式会社布引製作所
代表取締役社長 安藤 隆
〒658-0025 神戸市東灘区魚崎南町2－16－24 ☎078(431)1105㈹
http://www.nunobiki-s.co.jp FAX078(431)1107

建設業
大和ハウス工業株式会社
神戸支社長 斎藤英男
〒651-0084 神戸市中央区磯辺通4－2－22 ☎078(272)3800㈹
https://www.daiwahouse.co.jp FAX078(265)3555

総合物流システムメーカー
オークラ輸送機株式会社
代表取締役社長 大庫良一
〒675-8675 兵庫県加古川市野口町古大内900 ☎079(426)1181
https://www.okurayusoki.co.jp/ FAX079(426)1324

株式会社みなと銀行
代表取締役社長 武市寿一
〒651-0193 神戸市中央区三宮町2－1－1 ☎078(331)8141㈹
FAX078(331)8390

有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅の企画・運営、在宅ケアサービス
スミリンケアライフ株式会社
代表取締役 町野良治
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1－5－1（国際健康開発センター3階） ☎078(261)6665
https://www.s-carelife.co.jp FAX078(261)6662

鋳物用銑鉄、鋳鉄素形材の販売
株式会社福田博商店
代表取締役社長 福田 孝
〒660-0095 兵庫県尼崎市大浜町1－43 ☎06(6416)5331
http://www.castalloy.co.jp FAX06(6419)7668

電動ポンプ、小型モータ及び金型の製造・販売
三相電機株式会社
代表取締役社長 黒田直樹
〒671-2288 兵庫県姫路市青山北1－1－1 ☎079(266)1200㈹
https://www.sanso-elec.co.jp FAX079(266)1206

調査、研究、開発、各種機械の設計、各種プログラミング及びCGデザイン、CADデータ変換、鉄道車両の設計
株式会社清水設計事務所
代表取締役 清水俊純
〒651-0087 神戸市中央区御幸通4－2－20（三宮中央ビルディング11階） ☎078(221)8700
http://www.smdo.co.jp FAX078(221)8701

フッ素樹脂製品、工業用パッキン、ガスケット製造
株式会社大野社
代表取締役社長 大野光夫
〒651-1101 神戸市北区山田町小部惣六畑山5－3 ☎078(591)1051㈹
https://www.ohnosha.co.jp FAX078(591)1227

熱機材製造・販売・輸出入、高周波誘導加熱装置
ジェミックス株式会社
代表取締役 平松慶大
〒658-0031 神戸市東灘区向洋町東2－7－9 ☎078(857)6100㈹
http://www.jemix.co.jp FAX078(857)6111

船舶用ポンプ・油水分離器・油排出監視制御装置・水耕栽培装置等の製造・販売
兵神機械工業株式会社
代表取締役社長 友藤昇平
〒675-0146 兵庫県加古郡播磨町古田1－5－30 ☎079(436)3001
https://www.hsn-kikai.com FAX079(436)3015

とりあえずやってみよか
株式会社シマブンコーポレーション
代表取締役 社長執行役員 木谷謙介
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4－2－7 ☎078(871)5181
https://www.shimabun.co.jp FAX078(802)9524

Cheer Up Your Quality 『品質』を通じて社会に価値を創造する
大王電機株式会社
代表取締役 近藤 輝
〒664-0831 兵庫県伊丹市北伊丹9－80－1 ☎072(785)7333
https://www.daioh-denki.co.jp/ FAX072(785)7337

高圧洗浄機および周辺機器、ミストシステムなど
株式会社洲本整備機製作所
代表取締役社長 番所利行
〒656-0012 兵庫県洲本市宇山1－4－6 ☎0799(22)2225
http://www.sumoto-seibiki.co.jp/ FAX0799(23)9158

空と海と、神戸の街に抱かれた アーバンアイランドリゾート
株式会社神戸ポートピアホテル
代表取締役社長 中内 仁
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6－10－1 ☎078(302)1111
https://www.portopia.co.jp FAX078(302)6877

公益社団法人 兵庫工業会

ニーズとシーズのベストコーディネータ
菱井商事株式会社
取締役社長 豊嶋義富
〒650-0037 神戸市中央区明石町32番地（明海ビル10階） ☎078(393)3300
http://www.hishii.co.jp FAX078(325)2289

NSスーパーフレーム工法・システム建築スタンパッケージR 全国展開中
阿比野建設株式会社
代表取締役社長 阿比野 剛
〒671-1116 兵庫県姫路市広畑区正門通4－3－3 ☎079(236)3555
https://www.abino.co.jp FAX079(237)0105

あなたの創造力が時代を変える
有限会社スミダ印刷
代表取締役 隅田武志
〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町4－14－3 ☎078(574)1566
http://www.sumidas.co.jp FAX078(574)1567